

船戸与一

Manabu Sumioka

2020年11月3日

目次

1	満州国演義	1
1.1	満州国演義一 風の払暁	2
1.2	満州国演義二 事変の夜	2
1.3	満州国演義三 群狼の舞	2
1.4	満州国演義四 炎の回廊	2
1.5	満州国演義五 灰燼の暦	2
1.6	満州国演義六 大地の牙	2
1.7	満州国演義七 雷の波濤	2
1.8	満州国演義八 南冥の雫	3
1.9	満州国演義九 残夢の骸	3
2	緋色の時代	3
2.1	緋色の時代 上	3
2.2	緋色の時代 下	3

図目次

表目次

1 満州国演義

あまり他人に勧められて本を購入することはない。他人からプレゼントされた本も実は読んでなかったりする。それは小学生のときからそうだった。小学二年生のときに先生からもらった本も無視したことがあり、それについては今では大変後悔していることのひとつである。

なぜそうだったのかは読書ノートを綴るうちに理由が表面に浮ぶだろう。

この満州国演義には惹かれるものがあった。そこには知りたい事実がもしかすると書かれているのではないかということだった。満州と当時の歪細歪の情勢と祖父の代に実際に父親・叔父をはじめとして一族がまきこ

まれた事変の具体的な出来事の断片が記録されていないかと読みながら探した。

さらに満州国演義シリーズはある人から読むことをすすめられたのだがもう既にそのときは読み進んでしまっていて残りの巻数は少なくなっていた。勧められたのは今は失くなった小料理屋のカウンターでだった。

満州国演義は9巻にもおよぶ船戸与一の長編小説である。また小説に関係する具体的な資料も船戸は書籍にしている。

新潮文庫『満州国演義』全9巻の題と帯の文言を以下引用する。

1.1 満州国演義一 風の払暁

この本だけ帯がない。いつなくなったのか、買ったときからか？二巻からは、ここに帯の文章を引用した。物語は慶應4年8月から始まる。『会津戊辰戦史』からの引用がある。

1.2 満州国演義二 事変の夜

1931.9.18 「満州事変」勃発!

謀略と武力で突き進む、関東軍。そして、敷島兄弟に亀裂が走る。

1.3 満州国演義三 群狼の舞

国家を創りあげるのは男の最高の浪漫だ—

1932年(大同元年)3月、満州国、建国。

1.4 満州国演義四 炎の回廊

「二・二六」。帝都震撼

青年将校のクーデターに、軍人帝国・満州が揺れる!

帝政に移行した満州国を襲う内憂と外患!

1.5 満州国演義五 灰燼の曆

日中遂に全面戦争!戦火は上海から古都南京へ。

1937(昭和十二)年、第二の満州を狙う男たちの独断専行。

1.6 満州国演義六 大地の牙

泥沼化する「事変」。凱歌は虚空に吸い込まれた。そしてノモンハンが血に塗れる!

大国ソ連と砲火を交え、日本は近代戦を体感する。

1.7 満州国演義七 雷の波濤

太平洋戦争開戦。帝国日本、南進す!

1941(昭和十六)年、日本の岐路を目撃する敷島兄弟。

1.8 満州国演義八 南冥の雫

インパール．緑の地獄．死せる男の名は，浪漫．
日本と満州，二つの帝国に迫りくる破滅の足音．

1.9 満州国演義九 残夢の骸

夢破れて，山河あり．満州国演義，完結．
船戸与一のライフワーク全 7500 枚!!

2 緋色の時代

小学館文庫で読んだ．
帯の文言を引用する．

2.1 緋色の時代 上

『ゴッドファーザー』+『ディアハンター』の迫力
一切か，無か？殺すか，殺されるか!
混迷のロシアの大地で，マフィア化したアフガン帰還兵が繰り広げる流血のクロニクル．死者累計 800 人!

2.2 緋色の時代 下

テロ戦争後の社会を予見した混沌の叙事詩
すべてはアフガンからはじまった
緋色は共産党の旗色であり，コサックの自由の象徴であり，そして鮮血の色—．果てしなげ抗争を描く比類なき 1900 枚